

## コ ラ ム

## 国際会議の紹介 : Inter Galva

広瀬 祐輔\*

Inter Galva (International Galvanizing Conference) は EGGA (European General Galvanizers Association) が主催し, ZDA (Zinc Development Association) がその事務局となつて, 1950 年に Copenhagen (デンマーク) で開かれた第 1 回会議以来ヨーロッパで開催されてきており, 1985 年 6 月の Munchen (西ドイツ) 会議で 14 回を数えている. はじめの頃は, いわゆるドブ漬け亜鉛めつき (general (or job) galvanizing) に関する発表がすべてであつたが, その後, 連続溶融亜鉛めつき (sheet galvanizing) に関する技術及び製品に対する関心が高くなるにしたがつて, その分野での発表件数が増えてきている. そして, 第 13 回 London (イギリス) 会議 (1982 年) では, 連続溶融めつきに関係している研究者有志の間で「Inter Galva の中に連続溶融めつきに関する発表の場をまとめてつくるよう ZDA に要求しよう」という動きがおこり, 筆者もその場に参加した. その結果, 第 14 回 Munchen 会議では連続溶融めつきだけを対象とする国際会議が International Zinc Coated Sheet Conference と名づけて, Inter Galva とは別に開催されることになつた. この方式は参加者の間でも好評であつたし, また今後の連続溶融めつきの発展性を考えると, 次回会議 (1988 年, 場所未定) 以降にも継承されていくものと思う. いずれにしても, 3 年ごとに開催される Inter Galva 及び International Zinc Coated Sheet Conference は世界の国々から, 溶融めつきの研究・開発, 製造及び販売に携わっている人々が集まる, 数少ない会議であるので, 該分野の情報の交換及び入手の場として, 今まで以上に重要な会議になつていくであろう.

第 14 回会議は 1985 年 6 月 10 日~13 日の 4 日間 (Inter Galva : 10 日~12 日, International Zinc Coated Sheet Conference : 13 日), 西ドイツ, Bayern 州の州都 Munchen の Sheraton Hotel Congress Centre で開催された. 以下にその概要を紹介する.

## 1. 会議概要

参加者 : 39 か国, 約 600 名, 日本からは 23 名

発表件数 : 12 セッションで合計 45 件 日本からは 4 件

発表は従来どおり 5ヶ国語の同時通訳のもとに行われたが, 討論が熱を帯びてくると通訳が機能しない場面が幾度かあつた. 長い伝統をもつ国際会議であるだけに事務局の会議運営は見事であり, 参加者の間での情報交換

の場は十分に設定されていた. たとえばコーヒープレークやランチタイム, 9 日夜の Welcome Cocktail 及び 12 日夜の Gala Evening (午後 7 時~午前 2 時! ちなみにホテルへの送迎用バスの始発は午前 0 時!) では各所に情報交換のグループができていた.

## 2. 各セッションのタイトル

## Inter Galva :

- (1) 各国のめつき業界の経済発展と業界の運営
- (2) 各国のめつき業界の運営と広報活動
- (3) めつき工場現場の諸問題
- (4) めつき槽の加熱方式
- (5) めつきの新しい応用とその事例
- (6) Si キルド鋼のめつき
- (7) デュープレックスコーティング
- (8) 耐食性
- (9) Zn-Al 合金めつき

## International Zinc Coated Sheet Conference :

- (A) Zn-Al めつきの性質
- (B) Zn-Al めつきと Zn めつきの比較
- (C) 連続溶融めつき

講演のすべては Inter Galva シリーズの一冊として出版される予定となつているので詳細はそちらを参照して頂きたい. 以下に Munchen 会議で筆者が関心をもつて聞いた item を 2 つだけ記しておきたい.

(1) Si キルド鋼のドブ漬けめつきにおける gray coating 対策

フランスで開発されたポリガルバに替わつて, 1983 年以降に Ni を 0.1% 含むテクニガルバがイギリス及びオランダで使われてきており, 現在イギリスでは 8 工場で営業生産中である. 会議では両合金めつきの特長は紹介されたが, 筆者としては, 浴中添加元素と合金層成長に関する Sandelin peak の低下現象の機構に関する発表が無かつたことが残念であつた.

(2) Zn-Al 合金めつき鋼板

ガルバリウムとガルファンの製造技術及び品質に関する最近の研究成果が, それぞれの当事者から発表された. 当然のことながら参加者の関心は非常に高く, 以下の諸項目について活発な質疑応答が行われた.

犠牲防食性, 耐食・耐候性, 寿命保証制度 (長期耐候性の評価法), 地金中不純物元素の許容値

なお, この両合金めつき鋼板の品質比較については, 発表されたデータの採取条件が異なるのでそれらを直接, 比べることができなかつた. 次回 (1988 年) は主要な講演・討論対象の一つに取りあげられて, それぞれの合金めつき鋼板の製造・使用実績データをベースとして主なマーケットが明らかにされるものと思われる.

問合せ : Zinc Development Association 34 Berkeley Square, London W1X6AJ, UK

\* 日新製鋼(株)阪神研究所 工博